

牛久：学校周辺に見る自然

第7号 牛久二小、おくの義務教育学校、向台小

2021年4月26日発行

＜ 春はぐんぐん進んでいくよ ～ヨコヅナサシガメが次々と羽化しています ＞

みなさん、こんにちは。授業も本格的に始まり、先週は各校3年生の「校庭の生き物観察」のお手伝いをしました。雑草には各校共通で見られたものが多く、昆虫でも共通して見られたものもありました。今回はこの「学校周辺に見る自然」にもたびたび登場している、ヨコヅナサシガメを紹介します。

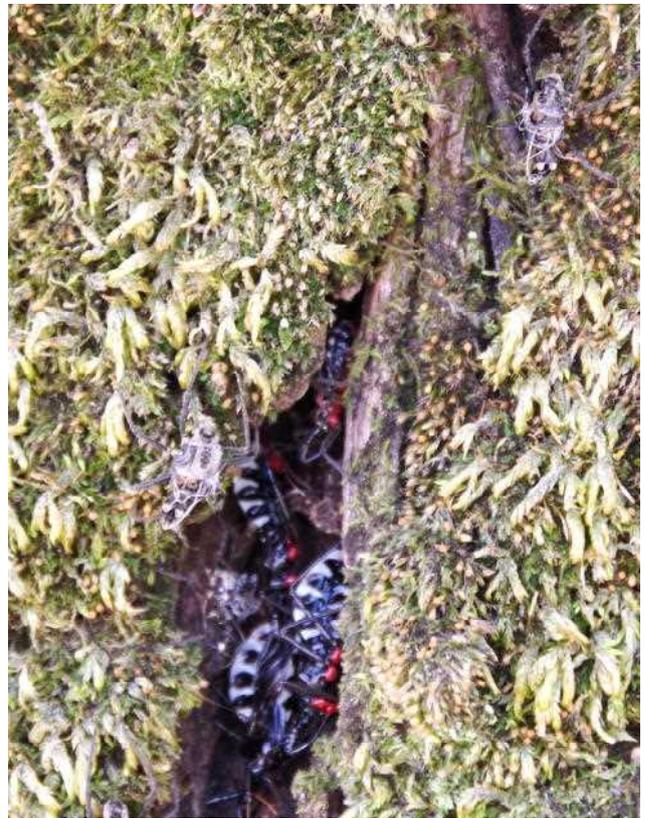


サトザクラの幹に集まっていた、ヨコヅナサシガメの幼虫と成虫（4.20牛久二小）。



左から幼虫（向台小）、羽化したての成虫とぬげがら、やや時間がたった成虫（牛久二小）、成虫（おくの）。

20日に牛久二小4年生、21日におくの義務教育学校3年生、23日に向台小3年生と観察しましたが、3校とも幼虫と成虫を観察できました。幼虫は羽がとても小さく飛ぶことはできませんが、羽化すると羽が大きく広がり、飛んで移動できます。羽化したての体がまっ赤なのも特徴の一つですね。



向台小（上2枚 4.23）と、おくの義務教育学校のヨコヅナサシガメ（下 4.21）。どちらも、桜の幹に集まっていた。

成虫は羽がのびるだけでなく、白黒しま模様が左右に広がります。カメムシのなかまで、これが相撲で横綱がつける化粧まわしに似ているのでヨコヅナサシガメ（横綱刺亀）と名がつけました。パッと見ると怖そうで、実際針のような口で刺されるとたいへん痛いそうですが、この口は桜などの葉を食べてしまう虫を退治してくれる口で、木にとっては、ありがたい虫なのです。 【理科支援員：宮内】